

# 高齢者インフルエンザ予防接種説明書

## 1 インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。インフルエンザにかかった人が咳やくしゃみなどを行うことにより、ウイルスが空気中に広がり、それを吸い込むことによって感染します。

典型的なインフルエンザの症状は、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水なども見られます。普通のかぜに比べて全身症状が強いのが特徴です。気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いのもインフルエンザの特徴です。

## 2 インフルエンザの予防

インフルエンザは空気中に拡散されたウイルスによって感染しますから、感染予防のためには、人込みは避けましょう。また、日頃から十分な栄養や休息をとることも大事です。インフルエンザ感染の広がりには空気の乾燥が関連しています。室内では加湿器などを使って加湿しましょう。外出時のマスクや帰宅時のうがい、手洗いは、普通のかぜの予防と併せておすすめします。

## 3 インフルエンザ予防接種の有効性

インフルエンザ予防接種の有効性は世界的にも認められています。我が国においても、高齢者の発症防止や特に重症化防止に有効であることが確認されています。

65歳以上の高齢者に対して行った調査では、予防接種を受けないでインフルエンザにかかった人のうち、34%～55%の人は予防接種を受けていればインフルエンザにかからずに済んだこと、また予防接種を受けないでインフルエンザにかかって死亡した人のうち、82%の人は予防接種を受けていれば死亡せずに済んだことが報告されています。

なお、予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、その効果が十分に持続する期間は約5ヶ月間とされています。より効率的に有効性を高めるためには、毎年インフルエンザが流行する前の12月中旬までに接種を受けておくことが必要です。

## 4 インフルエンザ予防接種の副反応

予防接種の注射の跡が赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることがありますが、通常2～3日のうちに治ります。また、僅かながら熱が出たり、寒気がしたり、頭痛、全身のだるさなどがみられることもありますが、通常2～3日のうちに治ります。また、接種後数日から2週間以内の発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害の症状が現れる等の報告があります。

非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などがあらわれることがあります。

## 5 助成対象者

- ① 接種日現在、満65歳以上の人
- ② 接種日現在、満60歳以上65歳未満の人のうち、心臓、腎臓、呼吸器の機能障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害があり、身体障害者手帳1級に相当する人

※この予防接種は義務ではありません。本人が希望する場合に限り接種を行います。

## 6 予防接種を受ける前に

### (1) 一般的注意

インフルエンザの予防接種について、この説明書やパンフレットなどをよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。何か気にかかることやわからないことがあれば、予防接種を受ける前にかかりつけの医師や看護師、市担当課に質問しましょう。十分に納得できない場合には、接種を受けないでください。

予診票は、接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける人が責任を持って記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

## (2) 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱のある人  
一般的に、体温が 37.5℃を超える場合を指します。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人  
急性の病気で薬を飲む必要のある人や現在薬を服用している人は、その後の病気の変化がわからなくなる可能性もあるので、見合わせるのが原則です。
- ③ インフルエンザ予防接種に含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな人  
「アナフィラキシー」とは、通常接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応のことをいいます。
- ④ インフルエンザの予防接種で、接種後 2 日以内に発熱や、全身の発疹等のアレルギーを疑う症状を起こしたことがある人
- ⑤ その他、医師が不適当な状態と判断した場合  
上記の①～④に該当しなくても、医師が接種不適当と判断した場合は接種できません。

## (3) 接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患がある人
- ② 過去にけいれんを起こしたことがある人
- ③ 過去に免疫不全と診断されたことがある人、及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ④ 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患のある人
- ⑤ インフルエンザワクチンの成分または鶏卵、鶏肉、その他鳥由来のものに対して、アレルギーがあるとされたことのある人

#### (4) 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ① 予防接種を受けた後 30 分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ② インフルエンザワクチンの副反応の多くは 24 時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ④ 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

### 7 副反応が起こった場合

予防接種の後、まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れることがあります。

予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱を持ってひどく腫れたり、じんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、医師（医療機関）の診療を受けてください。

### 8 予防接種による健康被害について

予防接種法に基づく救済制度が適用されます。ただし、その健康被害が予防接種によるものかを審議し認定された場合に補償を受けることができます。

以上の注意をよく読んで、わからないことがあれば質問しましょう。

お問合せ先：上越市 健康づくり推進課 保健衛生係  
電話 025-520-5711（直通）

妙高市 健康保険課  
健康づくり・母子・感染症グループ  
電話 0255-74-0013（直通）